

男山本店店舗、千田家住宅主屋 工事が前進

男山本店店舗の復原工事

国登録有形文化財「男山本店店舗」の修復工事がいよいよ始まりました。工事は株式会社クマケ建設（気仙沼市）が請け負い、アルセッド建築研究所（東京都渋谷区）、株式会社ユー・エス・シー（神奈川県横浜市）が設計監理を担当しています。文化財建造物ですので、株式会社文化継承建築設計事務所（千葉県鎌ヶ谷市）の加藤雅大氏が技術指導にあっています。今年10月10日、晴天のもと行われた上棟式から2か月が経ち、再建が進む現地では、工事用シートがかけられ、内側に男山本店の三階建ての姿が透けて見えます。来年、令和2年3月の完成に向け着々と工事が進んでいます。被災で残った3階部分のモルタル洗出し仕上げの外壁や一番てっぺんの飾り（パラペット部分）は、解体工事の際に大ばらしし、保管していますが、再設置工事は、一番見せ場になりますので、現場見学会を開催する予定です（年明けを予定）。また、完成した際には、お披露目会を開催する予定ですので、日時が決まりましたら改めてお知らせいたします。



▲男山本店店舗の上棟式(10/10)

千田家住宅の修復工事

＜第1期工事開始＞

ついに令和元年11月29日から着工しました。実際の工事は、12月19日から、足場組みが始まりました。男山本店店舗と同様に来年春の完成を目指します。第1期工事では、建物を健全にするため、耐震補強、基礎改修、外壁補修などの工事を行います。株式会社興建ハウジング（大崎市三本木）が請け負い、有限会社ササキ設計（仙台市青葉区）が設計監理を担当し、建築家の金出ミチル氏（千葉県市川市）が技術指導にあっています。外壁工事にあたっては、劣化状況を正確に把握し補修するため、現在のクリーム色のペンキ塗装を剥離します。この工事は、専門業者の有限会社レイブリックス（神奈川県川崎市）が担当し、特殊な溶剤の塗布や高温高圧洗浄により塗装を剥離する作業です。創建当時のモルタル洗出し仕上げの外壁をあらわした姿によみがえります。その後、基礎補強工事に入ります。現在の床高よりやや高めに施工されることで、浸水の被害を食い止めることができそうです。また、被害の少なかった3階は、小修理して利用できるようにします。今回の工事では、内装やインフラ整備（上下水道、電気等）、2階内部や土蔵石蔵等の修復までは、資金不足のため施工できず、次年度以降になる見込みですが、創建時に近い千田家住宅が再建され、「風待ちステーション」としての活用が待たれます。



▲修復工事が始まった千田家住宅

＜外壁塗装剥離工事見学会を予定＞

修復工事で一番の見どころとなる外壁塗装剥離工事をみなさんに見ていただくため、現場見学会を予定しています（年明けを予定）。剥離工事は危険が伴うとのことで、作業状況の映像や写真で伝え、よみがえった洗い出し壁に触れ、間近に見られるようにする予定です。当日は、温かい飲み物（甘酒）をご用意します。工事の進捗状況によりますが、見学会の日程が決まりましたら、お知らせいたします。

＜千田家住宅 修復資金が不足＞

千田家住宅の再建にはまだまだ資金が足りません。今後も千田家住宅の工事状況を随時、ホームページやニュースレターでお知らせします。ぜひ注目いただき、お知り合いの皆様へも近況をお伝えいただけますと幸いです。当会では、引き続き、各種補助・助成制度の活用や、風待ち募金活動に力を入れたいと思います。みなさまのご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。